

# 家畜衛生だより

## 牛ウイルス性下痢(BVD)の バルク乳検査(第1回)を実施します

今年度も牛ウイルス性下痢の持続感染牛(PI牛)を早期に発見するため、バルク乳を用いたスクリーニング検査を実施します(無料、年2回予定)。

- ✦検査日程:令和3年10月20日(水)
- ✦検査材料:バルク乳(クーラーステーションにて採材)
- ✦検査方法:遺伝子検査

### ➤ 牛ウイルス性下痢(BVD)とは？

BVDウイルスの感染による牛の感染症です。感染すると下痢や発熱、呼吸器症状などを起こしますが、通常一週間程度で回復します。

妊娠牛がBVDウイルスに感染すると、胎盤を介して胎子も感染し、胎齢により流産や先天異常が起こります。

### ➤ 持続感染牛(PI牛)とは？

妊娠牛が胎齢約18~125日で感染すると、胎子の免疫機構が出来上がっていないため、ウイルスを排除することができず、ウイルスと共存したままPI牛(持続感染牛)として生まれる場合があります。

PI牛は、生涯にわたって糞尿や鼻汁から大量のウイルスを排出し続け、他の牛に感染させます。新たにPI牛が生まれてくる可能性があるため、牧場は汚染され続けます。治療法はなく、PI牛の子はPI牛になります。

➤ 対策について

①農場内にPI牛がいないか検査をしましょう。

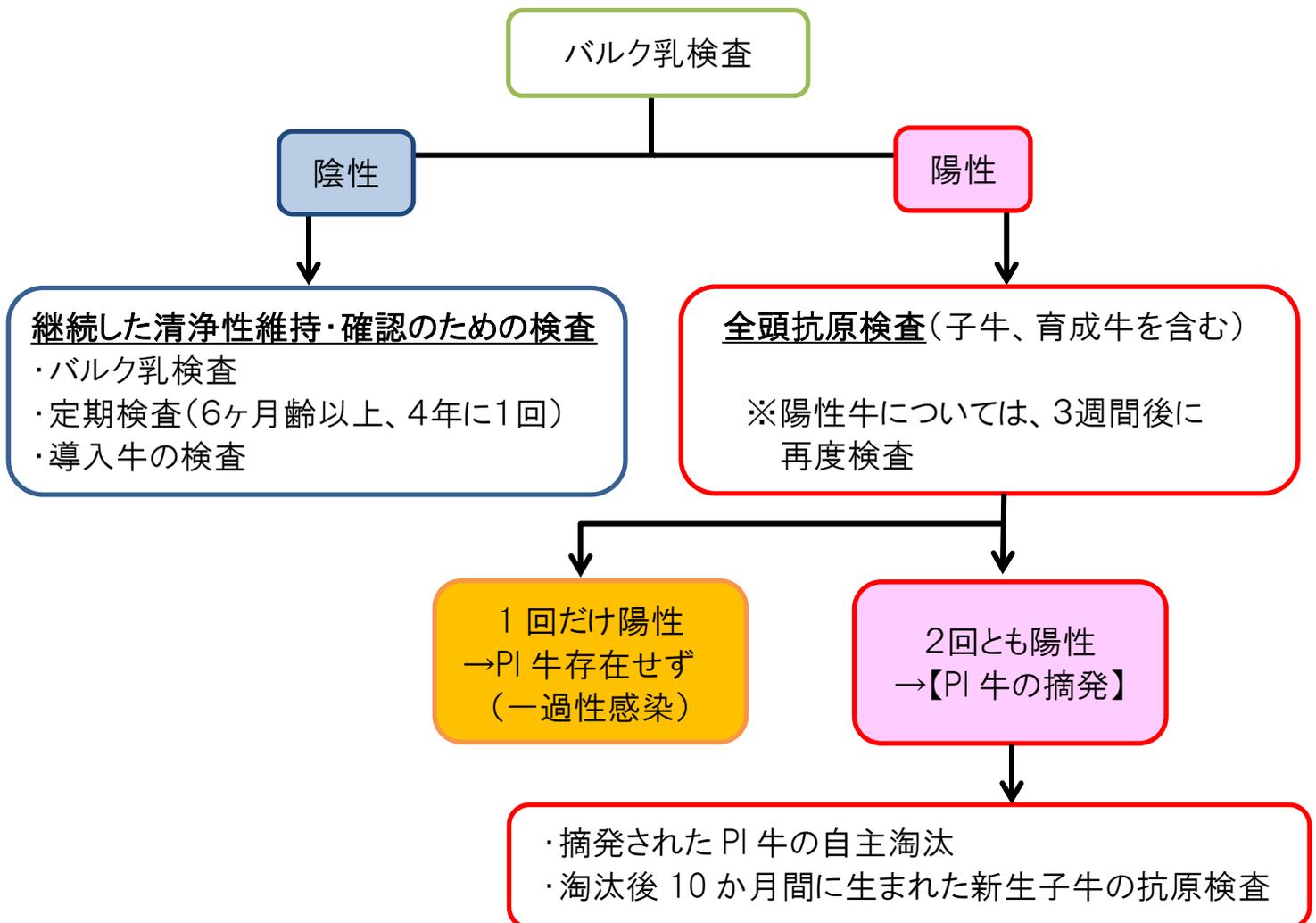
埼玉県では、年2回のバルク乳検査の他、令和3年度から定期検査として4年に1回全頭検査を実施しています。外部から牛を導入する場合、ワクチン履歴を確認し、接種歴がなければ検査をすることをお勧めします。

②ワクチンを接種して感染を予防しましょう。

BVD ワクチンは、生ワクチンと不活化ワクチンがあります。生ワクチンは妊娠中に接種すると胎子がPI牛になってしまう可能性があるので、妊娠牛には不活化ワクチンを使用しましょう。

➤ もし、バルク乳検査で陽性になったら？

バルク乳検査で陽性になった場合は、PI牛を摘発する必要があります。PI牛の摘発と、その後の流れは、以下のとおりです。



中央家畜保健衛生所 (さいたま市北区别所町 107-1)

開所時間 平日 8:30~17:15

TEL:048-663-3071 FAX:048-666-8731

休日、夜間は緊急携帯電話に自動転送されます。(緊急携帯電話:090-2757-1650)